



ショールーム内でOB顧客が講師となり開催したクリスマスリース作り教室の様子



2階ではナチュラルホームのテイストに合う雑貨も販売



事務所兼ショールーム外観

シ
ョ
ー
ル
ー
ム



「いい人同士が集まれば交流が生まれ、互いに暮らしの参考にできる」と話す。ただし、このような交流が生まれるのは「お客さまからメンテナンスなどの連絡があったらすぐに駆けつけるなど、夫やスタッフが信頼関係を築いてくれているからこそ」とし、工務店として顧客の暮らしに関わる中での責任も忘れない。

「中途半端な田舎」ならではの
上質な暮らし実現

同社が提唱する「上質な暮らし」の中には、住宅の中で過ごす時間だけでなく、「地元羽島での暮らしを楽しんでほしい」という思いも含まれる。

本社の最寄りである岐阜羽島駅は、名古屋駅から新幹線で約10分と都市部へ

のアクセスがいい住みよい場所にありながら、名古屋と比較すると「土地代は格段に安い」（紀子さん）。「中途半端な田舎なのかもしれないが、見方を変えれば都市部での仕事と適度な自然環境のもとの心豊かな暮らしを両立できるぜいたくな環境とも言える」と紀子さんは話す。

紀子さんは名古屋出身。羽島に引っ越した当初は「何もない場所だと感じた」。が、住み始めて10年がたち、広く取れる土地を生かした庭のある暮らしなど「中途半端な田舎だからこそできる丁寧な暮らしがある」と再発見。より多くの

ナチュラルホーム

1984年に前身となる大河建設が設立、2017年3月にナチュラルホームへと社名変更。スタッフ4人。年間新築8棟を手がける。素朴な質感を生かしたこだわりの住宅を提供しながら、羽島ならではの豊かな暮らしづくりを顧客と共に進める。

人に羽島の暮らしの豊かさを伝えたいと考える。「もし名古屋での暮らしに窮屈さを感じている人がいたら、ぜひ一度、私たちや当社のお客さまの羽島での暮らしぶりをのぞいてみてほしいですね」と笑った。